

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590400069		
法人名	医療法人 社団慈生会		
事業所名	グループホーム華房福栄2号館		
所在地	山口県萩市大字福井3507番地11		
自己評価作成日	平成27年 3月 26日	評価結果市町受理日	平成27年8月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年4月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○全職員が有資格者であり、それぞれの専門性を活かして、又、職員の年齢層も広く、様々な視点から、お互いの意見が出しやすい環境で、アイデアや工夫を出しながら、利用者の思いを大切にし、希望に沿ったケアを心掛けています。
○施設内研修を年間計画に取り入れ、希望の施設外研修に参加し勉強会を設け、各自のスキルアップに繋げています。
○医療法人である為、緊急時や夜間の利用者様の容体の変化に対し、医師や、看護師の的確な助言や、対応法の相談が出来、指示を仰ぐことができる。又、法人の医療機関や、他の医療機関の入院等にも、スムーズに移行することができる。同敷地内に当直職員がおり、夜間の緊急時には協力が得られる体制があり、利用者様や夜勤職員は安心できる。

災害時の地域との協力体制として、運営推進会議メンバー3名を含む12名の「地域協力員」を登録され、利用者の災害時の安全について毎月1回会議を開催しておられ、その話し合いの中から災害時の協力だけでなく、法人主催の夏祭りへの協力を得られ、地域の人や子供たちなど多くの参加を得て、初めて夜間に開催されています。利用者は化粧をされ、浴衣を着て参加者との交流を楽しまれるなど、地域とのつながりが広がっています。月1回の職員会議や年1回の個別面談で直接職員の意見や提案を聞いておられる他、日常の業務の中での職員の気づきや意見を大切にされており、災害時の安全な避難経路を確保するための非常階段の設置や利用者の状態に応じた入浴介助体制、利用者が季節を感じることができる環境づくりとして園芸保りを新設するなど、職員の意見や提案を運営に反映しておられ、職員の働く意欲やサービスの質の向上につなげておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自に理念を事業所内に掲示し、職員は名札の中に携帯することで、理念に対しての意識づけを行い、実践に繋げるように努め、職員間で共有している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、法人理念、法人の年度の目標と一緒に事業所内に掲示している。職員は理念を名札の中に携帯し、理念を踏まえた自身の年間目標を法人に提出している。日々の業務の中で理念が活かされているかを話し合っ て確認し、共有して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、代表が地域の集会に参加している。又、毎月1回定期的に地域の方とも会議を開き情報交換の場を設けている。地域の道の駅のイベントや、七夕飾りに利用者様と出掛けている。大正琴や、おしゃれ教室のボランティアの来訪、隣接する法人事業所にボランティアが来訪された時は声を掛けて頂き参加し、他事業所の利用者様と交流を図っている。	自治会に加入し、代表が総会に出席して情報交換したり、地域の開催行事の情報収集をしている。災害時の地域との協力体制として、月1回、地域協力委員との定例会議を開催し、情報交換している。利用者は道の駅祭りや福祉祭り、七夕飾り見学に職員と一緒に参加している。隣接の法人3施設主催の夏祭りには地域協力委員による地域の人への呼びかけと協力があり、初めて夜間の開催ができ、地域の人や子どもたちなど、多くの参加者があり、利用者は化粧をし、浴衣を着て参加し交流するなど、地域とのつながりが広がっている。隣接する小規模多機能型居宅介護事業所に来訪しているボランティア(大正琴、おしゃれ教室、踊り、歌、よさこい、神楽舞)の人や利用者とは交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域には、2ヶ月に1回発行している事業所だより(施設の状況、活動報告などを記載したもの)を配布している。地域への働き掛けは少ないが、地域の事業所とも連携を図り、地域の方の入居に向けての支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者により評価の意義について説明し、全職員で自己評価に取り組み、記入した後まとめる。日頃の業務の見直しや、ケアについて話し合う機会にもなっている。	管理者は評価の意義を説明し、自己評価をするための書類を職員に配布し、ガイド集や前回の評価結果を参考にして記録してもらい、全職員で話し合った後、計画作成担当者や管理者がまとめている。職員は自己評価をケアの見直しの機会と捉え、日ごろの業務の見直しやケアの実践について具体的に話し合いをしている。前回の外部評価結果を受けて、全職員が評価の意義を理解して取り組んでいる他、応急手当や初期対応の訓練の実施、災害時の協力を得るために地域協力員による協力体制の構築など、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催し、利用者の状況、行事、意見、要望を聞き、サービスに反映できるように取り組んでいる。消防関係の方には年2回参加頂き避難経路、災害時の対策等の意見交換を行う、地域の方には協力員という体制も出来、毎月1回会議を開催し、災害時、行事等の取り組みについての意見交換を行っている。	隣接の法人3施設と合同で年6回、開催している。利用者の状況や活動報告、行事予定、防災訓練、外部評価結果等の報告をして、意見交換をしている。話し合いの中から災害時の地域の協力体制として地域協力委員制度（現在12名）が発足し、毎月委員会を開催している。災害時の協力だけでなく、地域住民とのつながりが広がり、深まるように事業所行事の協力を得ることになるなど、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の利用状況の報告や、支所の窓口に出向き介護保険の更新手続きをして頂いたり、情報の収集や、それに対する協力を頂いている。代表が地域ケア会議に参加し、情報の交換をする等、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	市担当課とは、運営推進会議時や電話、直接出向くなどして情報交換したり、更新手続きや主治医の意見書の受け取りをしてもらうなど、協力関係を築いている。地域包括支援センターとは、運営推進会議時に地域の高齢者の実情について情報交換を行い連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルがあり、職員全体会議で研修を行っている。抑制や、拘束の無いケアを職員全体が理解し、取り組んでいる。玄関には施錠はしておらず、利用者の動向や原因を把握し、散歩やドライブ等で気分転換を試み、安全面に充分に配慮しながら見守りや声掛けを行っている。	マニュアルに基づいて内部研修を行い、職員は身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで外出したい利用者には言葉かけの工夫や一緒に出かけるなどの対応をして、拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックに気づいた時には、職員同士で注意し合っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に委員会があり、研修の機会があれば参加して、内容は職員全体会議で復命をし、全職員に周知を図っている。施設内研修にも取り上げて、不適切なケアが行われていないか、職員間で話し合っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	両制度に対する知識を得るための外部研修や、勉強会の機会を設ける計画を立てている。現在利用されている利用者様は居られないが、必要に応じて対応していきたいと思っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要説明事項に沿い、十分な説明を心掛けているが、利用者や、ご家族からの不安や、疑問に対しては、解りやすく説明するように努めている。制度改正があった時には書面にて説明し、承諾を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情目安箱を設置しているが、苦情としての意見は寄せられていない。面会や、利用料の支払い時にご家族からの意見が聞けるような場を設け、情報を得る。意見が出た時には、速やかに職員全体で話し合い、結果や改善点を家族に報告する等、常に改善に努めている、	苦情相談の受付体制や処理手続きについて契約時に家族に説明をしている。面会時や月1回の利用料支払いのための来訪時、運営推進会議参加時、電話などで、家族からの意見や要望を聞いている。苦情目安箱を設置している。相談や意見が言いやすいように、来訪時には利用者の日々の様子を積極的に知らせている。個別ケアに関する要望があり「苦情提言等受付票」に記入し、職員間で共有してその都度適切に対応している。運営に関するまでの意見は出ていない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員全体会議、申し送り、個人面談を設け、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。又、日常の業務の中でも、気軽に意見が出せるよう、コミュニケーションを取っている。	管理者は、月1回の職員会議時や年1回の個人面談で直接職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、申し送り時や日常業務の中でも気軽に意見が言えるように雰囲気づくりに努めている。災害時の避難経路確保のための非常階段の設置や2人体制での入浴介助、勤務体制の変更、新たな係(園芸)の設置などの意見を運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員の希望休を優先し、勤務調整を行っている。管理者は、常に現場に出て、勤務状況の把握をし、職員の資格取得に向けた支援や、環境づくりに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修には必要性があれば参加し、外部研修は内容等の情報を職員に伝え、希望や段階に合わせ勤務の一環として参加の機会を提供している。内部研修は、年間計画を立て職員間で担当することで、自己学習の場でもあり、スキルアップが図れるよう取り組んでいる。	外部研修は、情報を職員に伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は復命をし、資料を回覧して、伝達研修を行い、全職員で共有している。法人研修は、全職員を対象に月1回実施しており、関連あるテーマ(誤嚥予防、感染症等)を受講している。内部研修は年間計画を立て、管理者や職員が講師となって毎月、職員会議に合わせて30分程度、接遇やケアプラン、転倒、誤嚥時の対応、尿路感染症、身体拘束、乾皮症等を実施している。新人研修は4日間の法人研修の後、日々の業務を通して先輩職員から知識や技術が学べるように取り組んでいる。職員は全員、担当係を持ち、担当業務を通して業務の計画性や推進の在り方等を学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所、グループホーム連絡協議会の加入はしていないが、研修案内の通知はある。必要な研修には参加し、施設の抱える問題点など意見交換や交流する機会はあるが、ネットワーク作りには、現在も至っていない。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご家族と一緒に見学して頂いたり、家に訪問したりして直接ご本人や、ご家族と面談し、思いや、要望、不安に思っていることをお聞きし、早い段階で解決法を考え、安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、ご本人やご家族より、これまでの生活歴や、最近の様子をお聞きし、今後の支援に役立てるようにしている。又、関連機関からの情報収集をしながら、不安の解消に努め、ご意見をお聞きし、要望に応えるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族から、現在の状況を詳しくお聞きしたうえで、必要と思われるサービスを介護支援専門員を中心に、医師や、地域包括センター等と連携を取りながら、必要なサービスを検討している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個々の残存機能をしっかりと把握し、それが生かされるよう役割分担をし、お互いに協力し合い、出来るだけ自立に近づけるよう支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	苑外レクや、施設行事には、ご家族もお誘いして参加して頂くことで、関係の継続が保てるように支援している。又、面会時には、利用者様の要望をご家族に伝え、より良い関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅周辺や、昔よく行かれていた場所にドライブに出掛けたり、誕生日等の記念日には、ご本人の要望をお聞きし、ご家族や、職員と一緒に外食や、買い物に出掛けたりしている。	家族や親戚の人、兄弟、友人、近所の人との来訪がある他、手紙や電話での交流を支援している。生家や勤めていた職場付近のドライブ、馴染みのスーパーマーケットに買物等に出かけている。家族の協力を得て法事や葬儀への出席、買物、外食をするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活に役割分担を持って頂く等し、孤立しないように努めている。又、行事や、レクリエーション等で関わりが持てる場面づくりをしている。利用者間での個性のぶつかりには、職員が仲裁に入り、関係の修復をしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の医療機関に移行されたり、他施設に入居された場合等、次のサービスがスムーズに受けられるよう情報提供をし、必要に応じて相談も受ける体制を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートを使用し、利用者の生活歴や、嗜好を理解し、又、日常生活の中で、利用者様の言葉や思いを聞き記録し、職員間で共有することで、希望や、意向に沿った生活が送れるよう支援している。	入居時にセンター方式のシートを活用し、生活歴や嗜好品、得意なことを把握し、暮らし方の希望や思いの把握に努めている。入居後は日々の関わりの中で利用者が関心を示した出来事や行動、したいことなどを介護記録に記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様や、ご家族からの情報提供をもとに、フェースシートを作成している。今までの生活環境にちかづけ、安心して生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の出来ることを見極め、掃除、台拭き、お盆拭きや、カーテンの開閉等をして頂き、有する力が持続できるように努めている。又食事や水分量、睡眠や、排せつ状況をケア記録に記入し、変化、気づき等があればケース記録に記入し状況を把握するように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人に対し、職員の担当制を設け、計画作成者と共に、利用者様や、ご家族の意向をお聞きし、必要であるサービスを見極め、カンファレンスを実施し、介護計画を立てている。担当者は月に一度、その月の様子を記録し、モニタリングに役立てている。	計画作成担当者と利用者を担当する職員を中心に月1回、カンファレンスを実施し、利用者の思いや家族の要望、かかりつけ医、看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。「24Hアセスメントまとめシート」を活用して、3か月毎にモニタリングを実施し、1年ごとに見直しをしている。要望や状態に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に利用者様の言葉や、いつもと違う言動や、興味を持たれたこと、それに対する職員の対応を記入している。特に状況が変化した時には、カンファレンスを開き、職員間で話し合い、情報を共有し、計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の体調不良時には、医療機関へ受診の介助をしている。又、眼科、皮膚科、歯科の受診の付添はご家族にお願いしているが、ご家族が遠方に居られたり、都合上、受診が困難な時は職員が付き添っている。天気の良い日にはドライブや、地域の催し物に出掛けたり、入居者様の希望の献立があれば、一緒に調理をしたり、外食に出掛けたりしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の移動理美容車を利用している。又、防災訓練は、地域の消防団員や、地域の住民の協力を仰ぎ実施している。地域協力員会議を月に一度開催し、火災や、災害時の避難誘導のお願いをしたり、華房の夏祭りには地域のボランティアの方に屋台の運営等、お手伝い頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医療機関並びに、住み慣れた地域の医療機関へ受診できるよう支援しており、日常生活を観察し、状況を詳しく主治医に報告し、受診の際に活かしている。又、情報収集や、指示を仰ぎ、利用者様に安心して頂いている。	利用者、家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関は月1回の受診支援の他、休日、夜間、緊急時の対応をしている。日々の健康状況を「外来受診表」に記録し、受診時に持参して、情報提供している。他科受診は家族の協力を得て支援し、受診結果は電話や来訪時に家族と共有している。毎日、健康チェックを行い、看護師や医師のアドバイスを受けて、異常の早期発見に努めるなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、健康チェックを実施し、申し送りや連絡ノートで状況の変化を伝えている。異常等の早期発見に努め、看護師に報告や、相談をし、医療機関よりアドバイスや、対応法の指示を受けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関へ詳細な情報を書面にて提供し、経過観察や、状況観察の為、面会に出向いている。又、他の医療機関の入院時には、法人の在宅療養支援部と連携を取り、退院時の受け入れ体制を検討している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状が重度化した場合、ご本人や、ご家族の意向をお聞きし、主治医との連携を密に今後の方針を話し合い、ご本人や、ご家族が納得いく方法を考えて、関係者と共に支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合に事業所のできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は早い段階から本人や家族の意向を踏まえ、かかりつけ医、看護師等関係者と話し合い、移設を含めて方針を共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書や、ヒヤリ、ハットに記入し、職員間で情報の共有を行ったうえでよく話し合い、報告書を提出。法人の医療安全委員会にて報告し、アドバイスを受ける。全職員を対象に、定期的な初期対応の研修を実施している。	事故報告書、ヒヤリハット報告書にその場にあった職員で話し合って記録し、法人の医療安全委員会に報告している。委員会からの助言を受けた後、全員で話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署主催の救急救命法とAEDの使用方法について全職が受講している。外部研修や内部研修の中で誤嚥時の対応や転倒時の対応について、その場面を捉えて対応の仕方を学んでいる。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、地域の消防関係者や、地域の協力員を招き夜間想定訓練をしている。災害時には、すぐに駆けつけて頂けるように地域の協力員との連携も確保している。	消防署の協力を得て、年2回、法人3施設合同で夜間の火災を想定した避難、通報、消火訓練、避難経路の確認を利用者や地域の人と一緒に実施している。26年4月に地域協力員制度(運営推進会議メンバー3名を含む12名で構成)を発足し、毎月1回会議を行い、協力体制について話し合いをしている他、訓練にも参加し具体的な役割を検討するなど、地域の協力体制を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修に参加したり、利用者様の生活歴や性格を考慮に入れ、プライバシーを損ねないような言葉かけを心掛けている。声のトーン、速度、調子に注意し、不快感を与えないようにしている。又、職員の不適切な言動がある時には、お互いに注意出来る関係作りをしている。	内部研修の中で学び、職員は利用者を人生の先輩として尊敬の念を持って、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応をしている。個人記録の取り扱いに注意し、守秘義務は徹底するように指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、十分にコミュニケーションを図り、ご本人の思いが聞き出せるよう支援している。言語障害や、聴覚障害の利用者様には、解りやすい言葉や、身ぶり等で自己決定が出来るように導いている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の体調や、何がしたいのかリラックスした状態でお聞きし、出来るだけ希望に添えるように職員は、柔軟な体制を取り支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には整容の介助を行い、外出時には着る服のアドバイスや、身支度を手伝っている。又、移動理美容車を利用され、カットや、毛染めをされている。ボランティアによる。夏祭りや、行事や、誕生会では、お化粧品や、手の手入れや、希望者には着物を着て頂いたりし、おしゃれを楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の提供サービスを受けているが、利用者様の希望を取り入れた献立にしたり、簡単な調理を一緒に実施することで、利用者様も、とても楽しみにされている。又、準備や、後片付けも役割分担をして実施して頂いている。	三食とも調理済み食材を利用し、ご飯と汁物は事業所で調理している。利用者の希望を聞いてメニューを注文し、利用者の状態に合わせて、きざみ食やアレルギー、糖尿病、カリウム制限等の食事の支援をしている。事業所菜園で取れる芋のつる、職員持参の蒔や筍など、旬の野菜を一品添えて季節感を味わってもらっている。利用者はトレイ拭きやテーブル拭き、下膳、コップを拭く、布巾をたたむなど、できることをしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで会話を楽しみながら食事をしている。おやつづくり(どら焼き、たこ焼き、プリン、甘夏かん、牛乳かん)や季節行事食(おせち料理、お餅、恵方巻、ソーメン、クリスマスケーキ)、誕生日に好きなものを食べに出かける外出(刺身、寿司など)、リンゴ狩りには弁当を持って戸外食など、食事が楽しみなものになるように工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人ひとりの食事形態や、一日の中に設けてある水分補給の時間以外でも十分に水分補給が出来るようにし、脱水が無いように心掛けている。法人の医療機関と連携を取り、栄養や、食事制限の指導を受けている。又、食事量や、水分摂取量を記録し、職員間で把握している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、歯磨きや義歯洗浄の介助をし、口腔内の残渣物のチェックや、歯や歯茎の状況の観察をし、口腔内の清潔を保持している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排せつチェック表を利用し、排せつの声掛け、誘導を行い、トイレでの排せつを心掛けている。紙パンツや、尿取りパットは個々に合わせたものを使用し、個々の排せつパターンを把握し、出来るだけ汚染につながらないように支援している。	排泄チェック表を活用し、習慣や排泄パターンを把握して、プライバシーに配慮した言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の促しや、運動の声掛けにより、自然な排便に繋がるように支援している。便秘気味の方には排便のコントロールの為、主治医に指示を仰いで、服薬を行うことがある。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個別での入浴が出来ることでプライバシーは保たれている。体調や汚染時等、その日や、その時の状態に合わせ、無理なく入浴が出来るよう配慮している。	入浴は、13時30分から16時までの間、1日おきに支援している。利用者の好みのシャンプーや入浴剤を使い、くつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで言葉かけの工夫や職員を交代するなどの工夫をしている。利用者の状態に合わせて、2人体制での入浴介助や清拭、シャワー浴、足浴、部分浴を行い、皮膚の状態をみてクリームを塗布するなど、個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や室温に留意し、空調設備や換気機能、加湿器等を使用することで、快適に過ごされるように調整している。季節や、室温、湿度に合わせ、寝具の調整を行い、気持ちよく眠れるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬情報をファイルに閉じて、全職員が内容を把握できるようにしている。朝、昼、夕、眠前の服薬ケースを用意し、服薬の準備をする職員、服薬をする職員と2重のチェックを行い、服薬の際には、名前、日付け、時間帯を声に出して読み上げ、誤薬が無いようにしている。服薬が変更になった際には、様子観察を行い、変化があるときは医師に報告し、指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人ひとりの生活歴を把握し、出来ることはお手伝い頂いている。ティータイムでは好みのお飲み物をお聞かし、楽しまれる。個別対応として、誕生日には外出を楽しみ、気分転換が図られるように支援している。	テレビ(水戸黄門、のど自慢)視聴、DVD視聴、CD(唱歌、演歌)を聞く、新聞や雑誌を読む、歌体操、ラジオ体操、軽体操、双六、かるた、脳トレドリル(計算、漢字)、萩弁遅口言葉、風船バレー、新聞たたみ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物収納、新聞紙でゴミ箱づくり、モップで掃除、居室の雑巾がけ、ボタン付け、衣服の整理、テーブルやトレイ拭き、外食、外出、夏祭りには浴衣を着て化粧やマニキュアをして楽しんだり、季節行事(小運動会、誕生日会、餅つき、年忘れ会、クリスマス)、家族からのクリスマスプレゼントなど、一人ひとりの活躍できる場面や楽しみごとを多くつくり、日々の生活に張り合いが持てるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には苑の周辺を散歩されたり、梅や桜などの季節の花が見ごろの時には、ドライブに出掛け、季節を感じて頂けるようにしている。行事の一環として、外食や、りんご狩り等も行っている。	周辺の散歩や買物、季節の花見(梅、桜、菜の花、チューリップ、紅葉)、ドライブ(道の駅巡り、生家付近、昔の職場)、りんご狩り、誕生日の外食の他、家族の協力を得て、外食や買物、法事や葬儀への参加など、一人ひとりの希望に添って出かけることができるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族にご了解を頂き、預り金を預かっている。苑外レクや、外出時には、ご本人が希望されれば、買い物の支援を行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、電話を取り次いだり、掛ける等の支援はしている。手紙のやり取りは現在の状況では困難であるが、毎日、一言日記を書くことで文字に親しまれる環境を作っている。ご希望があれば支援する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の掃除に加え、担当者により居室内細部の掃除、環境の整備に取り組んでいる。季節の花を飾ったり、その時期に応じた壁面の製作を一緒にしたりして季節を感じ、楽しんで頂けるように支援している。	玄関に季節の花を飾り、壁面には季節の壁面飾りや時宜を得た言葉が飾っており、季節を感じることができる。リビングは広く、天窓からの自然採光で落ち着いた雰囲気がある。室内にはテレビの前の大きなソファや机、椅子がゆったりと配置しており、利用者が思い思いの場所でくつろげるようになっている。温度、湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や、居間は共有のスペースであり、テレビや、レクリエーションを楽しまれたり出来るような環境を整えている。気の合う利用者様同士、隣に座られたりして会話を楽しまれる。利用者様同士で何かをされている時には干渉せず見守り、自主性を大切にするように心掛けている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示ボードにご家族の写真や、ご本人の誕生カード、思い出の写真、手作業されたものを掲示したりして話題作りに役立てている、又、入居時には出来るだけご本人が使われていたものや、思い出のあるものを持ち込んで頂くことにより、ご本人が混乱されないように支援している。	タンス、衣装ケース、テレビ、小テーブル、時計、ハンガー、家族写真、若いころの写真、造花、縫いぐるみ、鈴など利用者の大切なものや好みのものを持ち込み、ボードに祝色紙や自分で書いた今年の目標を貼って、居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーの壁には手すりが設置されており、歩行不安定な利用者様には安全に移動できるように配慮してある。木製のカレンダーを設置し、日付けを確認して頂いたり、掲示物等により、季節や、時候が解るように工夫をしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム華房福栄2号館

作成日：平成 27 年 8 月 11 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が実践力を身につけるための、応急手当や、初期対応の定期的な訓練の継続	急変や、事故に備えて、応急手当、初期対応の訓練を継続することで実践力を身につける	・施設内で起こりうる事故に対しての定期的な研修、訓練の実施（看護師を主体に、日々の業務の中での研修にも取り組む） ・外部研修や内部研修の充実を図り、実践力に繋げていく。	12カ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。